

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1183 号	氏 名	西 牧 史 洋
論文審査担当者	主 査 野見山 哲生 教授 副 査 杠 俊介 教授 ・ 中 沢 洋 三 教授		
<p>(論文審査の結果の要旨)</p> <p>カンジダ菌は、共生真菌生物ならびに粘膜組織の日和見病原体である。カンジダ菌は習慣的に口腔内に存在し、そして多くの全身のおよび局所的要因により口腔内のカンジダ菌が増加するとされている。しかしながら、口腔カンジダ菌の増加に対する宿主の全身状態/疾患の影響は不明のままである。本研究の目的は、口腔カンジダ菌量と宿主の全身状態/疾患との間に関連性があるかについて調査検討することである。</p> <p>本研究では、長野県安曇野市および塩尻市で国保特定健診を受けた 30 歳以上の 1,935 人中から無作為に抽出された 563 人(261 人の男性と 302 人の女性)が本研究の対象者となった。口腔内のカンジダ菌量はうがい液をサンプルに、カンジダマンナン抗原濃度を測定して計測した。カンジダマンナン抗原濃度と特定健診結果との関連を統計学的に分析した。</p> <p>その結果、西牧史洋は次の結論を得た。</p> <ol style="list-style-type: none">1. う蝕歯または欠損補綴歯が多い者、唾液 pH が低い者ほどカンジダ菌量は多かった。2. 80 歳を越える者、また、赤血球数が低い者で口腔カンジダ菌量は多かった。3. HbA1c 値が高いもので、口腔カンジダ菌量が多い傾向を認めた。 <p>これらの結果により、口腔カンジダ菌量と宿主の全身状態/疾患との関連が示唆された。</p> <p>主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			